

巻頭言

一宮研伸大学紀要の発刊に当たって

学長 大久保清子

一宮研伸大学は、開設から5年が経過致しました。愛知きわみ看護短期大学から4年制大学への発展的移行に伴い、紀要の発刊は2018年をもって最後となっております。その後、大学での教育の充実に注視し、研究は行われていたにもかかわらず、なかなか紀要の発刊までには至りませんでした。大学の使命としてさらに研究を推進するにあたり「一宮研伸大学紀要投稿規程」や「一宮研伸大学紀要執筆要項」を整備し、やっと一宮研伸大学紀要第1巻をまとめ発刊するに至りました。

この間には、大学などの研究機関に競争的研究資金の獲得が強く推奨されるようになり、さらに研究の透明性の担保が厳しく問われるようになりました。大学の対応として適正に研究が履行できるように、「研究等における人権擁護・倫理委員会」「研究公正委員会」「研究利益相反審査委員会」の委員会をシステム化し、研究倫理や公的資金の適正使用などの監査システムを充実させました。システムを構築することで、本学教員による研究の透明性と質が向上するとともに、競争的資金の獲得を目指す教員が増加する傾向となりました。

一宮研伸大学紀要投稿規程では、「投稿論文は、本学の学術研究と教育の進歩や発展に寄与するものです。投稿者は原則として本学の専任教員（元専任教員を含む）、助手（元助手を含む）、学生（大学院生を含む）、卒業生（修了生を含む）、その他紀要編集委員会が認めた者とし、ただし共著者はこの限りでない。」としており広く投稿論文を公募するものです。本学で行われてきた研究の特色は、これまで行われてきた教育実績を踏まえた研究が多く、看護教育の実践から生まれた研究を中心に多数の論文が発表されています。

今後は、継続して刊行し、本学が社会に発信してきた研究の知見が、臨床での看護サービス提供の質の向上に、また看護教育や研究に広く活用されることを期待しています。

発刊にご支援くださいました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

2022年2月末日

